中学校歴史 単元別学習 90 問

第 10 単元 江戸幕府の改革と社会の変化

範囲：享保の改革／田沼の政治と寛政の改革／天保の改革／暮らしと諸藩の変化
用語を確かめ、出来事の順序や、政治の改革と暮らしの変化のつながりを説明しよう。

STEP 1 一問一答 50 問

政治の移り変わりと享保の改革

問 1　生類憐みの令を出し、儒学も奨励した第 5 代将軍は誰か。

問 2　綱吉が出した、犬などの動物や人の命を保護する一連の法令を何というか。

問 3　武力による統制に加え、学問や礼儀・道徳を重んじた政治の方針を何というか。

問 4　家宣・家継の将軍の時代、政治を補佐して改革を進めた儒学者は誰か。

問 5　新井白石が、家宣・家継のもとで進めた政治改革を何というか。

問 6　享保の改革を進めた、第 8 代将軍は誰か。

問 7　1716 年に将軍となった吉宗が進めた政治改革を何というか。

問 8　大名に石高に応じて米を出させ、代わりに江戸滞在を短くした制度は何か。

問 9　吉宗が人々の意見や訴えを集めるため、評定所の前に設けた箱は何か。

問 10　1742 年、吉宗のもとで定められた、裁判や刑罰などの基準をまとめたものは何か。

財政再建と田沼の政治

問 11　吉宗が年貢収入を増やすために奨励した、田畑を新たに開く事業は何か。

問 12　過去の年貢の実績などを基準に、一定期間の年貢額を定める制度は何か。

問 13　役職に必要な収入に家禄が足りない者へ、不足分を在職中に補った制度は何か。

問 14　目安箱への提案をきっかけに設けられた、貧しい病人のための施設は何か。

STEP 1 一問一答 50 問 続き

問 15　吉宗の時代、さつまいもの栽培を試み、その普及に努めた学者は誰か。

問 16　青木昆陽が普及に努め、飢饉に備える作物として注目された、いもは何か。

問 17　18 世紀後半、商業や貿易を重視して幕府の財政を立て直そうとした老中は誰か。

問 18　田沼が積極的に公認した、同業の商人や職人による組織は何か。

問 19　田沼が商工業者から集め、財政の収入源とした営業にかかわる税を二つ挙げよ。

貿易と天明の飢饉と寛政の改革

問 20　田沼が中国などとの貿易を増やそうとした、幕府直轄の港はどこか。

問 21　干したなまこ・あわび・ふかひれなど、中国に輸出した海産物を何というか。

問 22　1780 年代、冷害などにより、東北地方を中心に大きな被害を出した飢饉は何か。

問 23　1783 年に大噴火し、天明期の暮らしに大きな被害を与えた火山は何か。

問 24　田沼の失脚後、老中となって寛政の改革を進めた人物は誰か。

問 25　1787 年から松平定信が進めた政治改革を何というか。

問 26　定信が飢饉に備え、諸藩などに米を蓄えさせた政策を何というか。

問 27　旗本・御家人の、札差からの古い借金などの返済を免除した法令は何か。

問 28　幕府の学問所で、朱子学以外の学問の教授を禁じた政策を何というか。

問 29　寛政の改革で、幕府が正しい学問として重んじた儒学の一派は何か。

人々の暮らしと天保の改革

問 30　年貢の軽減や不正な役人の処罰などを求め、百姓が団結した運動は何か。

問 31　米価の高騰などに抗議し、米屋や豪商などを襲って家財を壊した行動は何か。

問 32　地主の田畑を借りて耕作し、その対価を地主へ納めた人を何というか。

問 33　田畑を人に貸し、小作料を受け取る土地の持ち主を何というか。

歴史 10 江戸幕府の改革と社会の変化

問 34　1830 年代、冷害や凶作が続き、大塩の乱の背景にもなった飢饉は何か。

問 35　1837 年、大坂で救済を求めて兵を挙げた、元町奉行所の役人は誰か。

問 36　1841 年から、天保の改革を進めた老中は誰か。

問 37　水野忠邦が倹約や物価の引下げなどをめざして進めた改革は何か。

天保の政策と諸藩の改革

問 38　都市へ出た百姓を村へ戻し、農村人口の回復を図った天保の政策は何か。

問 39　江戸・大坂周辺の大名・旗本領を幕領にしようとして、反対を受けた法令は何か。

問 40　天保の改革で、商人の独占を抑え、物価を下げるために命じた措置は何か。

問 41　藩などが特産物の生産・販売を統制し、利益を得る仕組みを何というか。

問 42　米沢藩で倹約や農業・産業の振興を進め、藩政の改革に取り組んだ藩主は誰か。

問 43　調所広郷が財政の立て直しを進め、砂糖の専売などを利用した島津氏の藩は何か。

問 44　村田清風が改革を進め、下関の交易なども財政再建に利用した毛利氏の藩は何か。

社会の変化と改革の課題

問 45　商品を売買するときに、お金を使うことが社会に広がった経済を何というか。

問 46　ぜいたくを禁じ、質素な生活で出費を減らすよう命じた法令を、何令というか。

問 47　城下町などで商業や手工業を営み、経済力を高めた人々の身分を何というか。

問 48　幕府や藩の主要な収入源となった、百姓が領主に納める米などの税は何か。

問 49　地主の田畑を借りた人が、米や金銭などで地主に支払ったものは何か。

問 50　農村で農業のほか商業や金融なども営み、大きな経済力を持った有力な百姓は何か。

STEP 2 歴史の並び替え 20 問

次のア〜エを、古い順に並べなさい。

問 1　白石から吉宗へ

ア 白石が家宣の政治を補佐し始める　　イ 吉宗が将軍となり改革を進める
ウ 吉宗が目安箱を設ける　　エ 吉宗が上げ米の制を定める

問 2　享保の改革の進展

ア 吉宗が上げ米の制を定める　　イ 吉宗が足高の制を定める
ウ 吉宗が将軍となり改革を進める　　エ 吉宗が目安箱を設ける

問 3　吉宗の政治と飢饉

ア 公事方御定書が定められる　　イ 享保の飢饉が起こる
ウ 吉宗が上げ米の制を定める　　エ 吉宗が目安箱を設ける

問 4　享保の改革から田沼へ

ア 公事方御定書が定められる　　イ 吉宗が将軍となり改革を進める
ウ 吉宗が足高の制を定める　　エ 田沼意次が老中になる

問 5　田沼の政治と天明期の災害

ア 浅間山が大噴火する　　イ 定信が老中となり改革を始める
ウ 田沼意次が老中になる　　エ 田沼意次が老中を辞める

問 6　田沼から定信へ

ア 田沼意次が老中になる　　イ 定信のもとで棄捐令が出される
ウ 田沼意次が老中を辞める　　エ 定信が老中となり改革を始める

問 7　寛政の改革の政策

ア 定信のもとで棄捐令が出される　　イ 定信が老中となり改革を始める
ウ 浅間山が大噴火する　　エ 寛政異学の禁が出される

STEP 2 歴史の並び替え 20 問 続き

次のア〜エを、古い順に並べなさい。

問 8　三つの改革の順序

ア 天保の飢饉が広がり始める　　イ 定信が老中となり改革を始める
ウ 忠邦が天保の改革を始める　　エ 吉宗が将軍となり改革を進める

問 9　飢饉と政治の移り変わり

ア 浅間山が大噴火する　　イ 定信が老中となり改革を始める
ウ 天保の飢饉が広がり始める　　エ 享保の飢饉が起こる

問 10　天保期の社会と改革

ア 大塩平八郎の乱が起こる　　イ 忠邦が天保の改革を始める
ウ 天保の飢饉が広がり始める　　エ 上知令が出され反対で撤回される

問 11　天保の改革と株仲間

ア 大塩平八郎の乱が起こる　　イ 忠邦が天保の改革を始める
ウ 幕府が株仲間を再興する　　エ 上知令が出され反対で撤回される

問 12　幕府の制度づくり

ア 吉宗が目安箱を設ける　　イ 公事方御定書が定められる
ウ 寛政異学の禁が出される　　エ 吉宗が足高の制を定める

問 13　財政再建の試み

ア 田沼意次が老中になる　　イ 忠邦が天保の改革を始める
ウ 定信のもとで棄捐令が出される　　エ 吉宗が上げ米の制を定める

問 14　災害と改革の展開

ア 定信が老中となり改革を始める　　イ 浅間山が大噴火する
ウ 大塩平八郎の乱が起こる　　エ 忠邦が天保の改革を始める

STEP 2 歴史の並び替え 20 問 続き

次のア〜エを、古い順に並べなさい。

問 15　享保から寛政へ

ア 寛政異学の禁が出される　　イ 定信が老中となり改革を始める
ウ 吉宗が将軍となり改革を進める　　エ 公事方御定書が定められる

問 16　田沼の時代から天保へ

ア 田沼意次が老中になる　　イ 忠邦が天保の改革を始める
ウ 天保の飢饉が広がり始める　　エ 寛政異学の禁が出される

問 17　吉宗から忠邦へ

ア 忠邦が天保の改革を始める　　イ 田沼意次が老中を辞める
ウ 吉宗が足高の制を定める　　エ 定信が老中となり改革を始める

問 18　寛政から天保後まで

ア 幕府が株仲間を再興する　　イ 定信のもとで棄捐令が出される
ウ 天保の飢饉が広がり始める　　エ 上知令が出され反対で撤回される

問 19　武士の救済と政治の変化

ア 定信のもとで棄捐令が出される　　イ 吉宗が上げ米の制を定める
ウ 上知令が出され反対で撤回される　　エ 公事方御定書が定められる

問 20　18 世紀から 19 世紀へ

ア 白石が家宣の政治を補佐し始める　　イ 大塩平八郎の乱が起こる
ウ 田沼意次が老中になる　　エ 幕府が株仲間を再興する

STEP 3 記述問題 20 問

理由やつながりが伝わるように説明しなさい。資料がある問題は、資料も使って考えよう。

問 1　江戸時代の中ごろ以降、幕府や藩が財政難に悩んだのはなぜか。主な収入と、お金で支払う費用の関係から説明しなさい。

問 2　吉宗が進めた倹約と新田開発は、財政を立て直すうえで、どのように役割が違ったか。

問 3　上げ米の制では、幕府と大名はそれぞれどのような利益や負担を受けたか。資料を使って説明しなさい。

資料　大名に石高 1 万石につき米 100 石を出させる一方、参勤交代で江戸に滞在する期間を原則 1 年から半年に短くした。

問 4　目安箱の設置には、どのような意味があったか。実際の政策につながった例を一つ使って説明しなさい。

問 5　吉宗のもとで公事方御定書を定めたねらいを、裁判や刑罰の扱いから説明しなさい。

STEP 3 記述問題 20 問 続き

理由やつながりが伝わるように説明しなさい。資料がある問題は、資料も使って考えよう。

問 6　田沼意次は、農業の年貢に頼るだけでなく、どのように収入を増やそうとしたか。商業と貿易の二つに触れて説明しなさい。

問 7　田沼意次と水野忠邦は、株仲間をどのように扱ったか。それぞれのねらいとともに比べて説明しなさい。

問 8　天明の飢饉のころ、人々の不満はなぜ強まったか。凶作と米の売買、人々の生活を結び付けて説明しなさい。

問 9　松平定信は、農村の立て直しと飢饉への備えをどのように進めたか。二つの具体策を挙げて説明しなさい。

問 10　寛政の改革の棄捐令は、誰を救うために、どのような借金に対して出されたか。

STEP 3 記述問題 20 問 続き

理由やつながりが伝わるように説明しなさい。資料がある問題は、資料も使って考えよう。

問 11　松平定信が朱子学を重んじ、幕府の学問所の教育を統制したのはなぜか。身分や道徳に対する考え方から説明しなさい。

問 12　百姓一揆と都市の打ちこわしを、主な要求や相手の違いから説明しなさい。

問 13　貨幣経済が農村に広がる中で、土地を持つ人と借りる人の関係はどう変化したか。地主と小作人を使って説明しなさい。

問 14　大塩平八郎の乱が起きた背景と、短期間で鎮圧されても幕府に衝撃を与えた理由を説明しなさい。

問 15　天保の改革で株仲間を解散したねらいと、思いどおりに物価が下がらなかった理由を説明しなさい。

STEP 3 記述問題 20 問 続き

理由やつながりが伝わるように説明しなさい。資料がある問題は、資料も使って考えよう。

問 16　幕府だけでなく諸藩も財政の改革を行った。資料から、地域の特色をどのように生かしたか、二例以上を使って説明しなさい。

資料　米沢藩：織物などの産業を振興／薩摩藩：砂糖の専売などを利用／長州藩：特産物や下関の交易を利用

問 17　発展　「幕府の改革は、すべて完全に成功したか、すべて失敗したかのどちらかだ」と考えてよいか。資料を使って説明しなさい。

資料　享保期は新田開発などで収入の改善がみられた。一方、天保期の上知令は大名や旗本らの反対にあい、撤回された。

問 18　発展　「寛政異学の禁によって、日本中で朱子学以外の研究がすべてなくなった」といえるか。資料を使って説明しなさい。

資料　幕府の学問所では朱子学が正学とされた。その後も各地で国学や蘭学などの研究は続いた。

問 19　発展　「株仲間をなくせば、物価は必ず下がる」といえるか。資料から、仲間の複数の働きを考えて説明しなさい。

資料　株仲間には営業を独占する面と、取引や流通をまとめる面があった。幕府は 1851 年に株仲間を再興した。

問 20　発展　「藩が専売で利益を増やしたなら、特産物を作る人々も必ず同じだけ豊かになった」といえるか。資料を使って説明しなさい。

資料　藩は特産物の売買を管理して利益を得たが、生産や納入の義務などが、作る人々の負担になる場合もあった。

解答 STEP 1 一問一答

表記が異なっていても、同じ内容を正しく示していれば正解とします。

番号	解答	番号	解答
1	徳川綱吉	26	囲米
2	生類憐みの令	27	棄捐令
3	文治政治	28	寛政異学の禁
4	新井白石	29	朱子学
5	正徳の治	30	百姓一揆
6	徳川吉宗	31	打ちこわし
7	享保の改革	32	小作人
8	上げ米の制	33	地主
9	目安箱	34	天保の飢饉
10	公事方御定書	35	大塩平八郎
11	新田開発	36	水野忠邦
12	定免法	37	天保の改革
13	足高の制	38	人返しの法
14	小石川養生所	39	上知令
15	青木昆陽	40	株仲間の解散
16	さつまいも	41	専売制
17	田沼意次	42	上杉鷹山
18	株仲間	43	薩摩藩
19	運上・冥加	44	長州藩
20	長崎	45	貨幣経済
21	俵物	46	倹約令
22	天明の飢饉	47	町人
23	浅間山	48	年貢
24	松平定信	49	小作料
25	寛政の改革	50	豪農

認められる表記の例

問 2：生類憐れみの令も可。問 8：上米の制も可。問 16：サツマイモ・甘藷も可。
問 19：運上と冥加の順序は逆でも可。問 26：囲い米も可。問 27：棄捐の令も可。
問 31：打ち壊しも可。問 38：人返し令も可。問 42：上杉治憲も可。

解答 STEP 2 並び替え

出来事の年代と、その前後のつながりも確認しましょう。

番号	答え	解説
1	ア→イ→ウ→エ	新井白石による家宣の政治の補佐（1709 年） → 吉宗の将軍就任と享保の改革（1716 年） → 目安箱の設置（1721 年） → 上げ米の制の実施（1722 年）
2	ウ→エ→ア→イ	吉宗の将軍就任と享保の改革（1716 年） → 目安箱の設置（1721 年） → 上げ米の制の実施（1722 年） → 足高の制の実施（1723 年）
3	エ→ウ→イ→ア	目安箱の設置（1721 年） → 上げ米の制の実施（1722 年） → 享保の飢饉（1732 年） → 公事方御定書の制定（1742 年）
4	イ→ウ→ア→エ	吉宗の将軍就任と享保の改革（1716 年） → 足高の制の実施（1723 年） → 公事方御定書の制定（1742 年） → 田沼意次の老中就任（1772 年。それ以前から幕政に参加）
5	ウ→ア→エ→イ	田沼意次の老中就任（1772 年。それ以前から幕政に参加） → 天明期の浅間山大噴火（1783 年） → 田沼意次の老中辞任（1786 年） → 松平定信の寛政の改革開始（1787 年）
6	ア→ウ→エ→イ	田沼意次の老中就任（1772 年。それ以前から幕政に参加） → 田沼意次の老中辞任（1786 年） → 松平定信の寛政の改革開始（1787 年） → 棄捐令（1789 年）
7	ウ→イ→ア→エ	天明期の浅間山大噴火（1783 年） → 松平定信の寛政の改革開始（1787 年） → 棄捐令（1789 年） → 寛政異学の禁（1790 年）
8	エ→イ→ア→ウ	吉宗の将軍就任と享保の改革（1716 年） → 松平定信の寛政の改革開始（1787 年） → 天保の飢饉の広がり（1833 年頃から） → 水野忠邦の天保の改革開始（1841 年）
9	エ→ア→イ→ウ	享保の飢饉（1732 年） → 天明期の浅間山大噴火（1783 年） → 松平定信の寛政の改革開始（1787 年） → 天保の飢饉の広がり（1833 年頃から）
10	ウ→ア→イ→エ	天保の飢饉の広がり（1833 年頃から） → 大塩平八郎の乱（1837 年） → 水野忠邦の天保の改革開始（1841 年） → 上知令の発令と撤回（1843 年）

解答 STEP 2 並び替え 続き

番号	答え	解説
11	ア→イ→エ→ウ	大塩平八郎の乱（1837 年） → 水野忠邦の天保の改革開始（1841 年） → 上知令の発令と撤回（1843 年） → 株仲間の再興（1851 年）
12	ア→エ→イ→ウ	目安箱の設置（1721 年） → 足高の制の実施（1723 年） → 公事方御定書の制定（1742 年） → 寛政異学の禁（1790 年）
13	エ→ア→ウ→イ	上げ米の制の実施（1722 年） → 田沼意次の老中就任（1772 年。それ以前から幕政に参加） → 棄捐令（1789 年） → 水野忠邦の天保の改革開始（1841 年）
14	イ→ア→ウ→エ	天明期の浅間山大噴火（1783 年） → 松平定信の寛政の改革開始（1787 年） → 大塩平八郎の乱（1837 年） → 水野忠邦の天保の改革開始（1841 年）
15	ウ→エ→イ→ア	吉宗の将軍就任と享保の改革（1716 年） → 公事方御定書の制定（1742 年） → 松平定信の寛政の改革開始（1787 年） → 寛政異学の禁（1790 年）
16	ア→エ→ウ→イ	田沼意次の老中就任（1772 年。それ以前から幕政に参加） → 寛政異学の禁（1790 年） → 天保の飢饉の広がり（1833 年頃から） → 水野忠邦の天保の改革開始（1841 年）
17	ウ→イ→エ→ア	足高の制の実施（1723 年） → 田沼意次の老中辞任（1786 年） → 松平定信の寛政の改革開始（1787 年） → 水野忠邦の天保の改革開始（1841 年）
18	イ→ウ→エ→ア	棄捐令（1789 年） → 天保の飢饉の広がり（1833 年頃から） → 上知令の発令と撤回（1843 年） → 株仲間の再興（1851 年）
19	イ→エ→ア→ウ	上げ米の制の実施（1722 年） → 公事方御定書の制定（1742 年） → 棄捐令（1789 年） → 上知令の発令と撤回（1843 年）
20	ア→ウ→イ→エ	新井白石による家宣の政治の補佐（1709 年） → 田沼意次の老中就任（1772 年。それ以前から幕政に参加） → 大塩平八郎の乱（1837 年） → 株仲間の再興（1851 年）

解答 STEP 3 記述問題

模範解答は一例です。同じ意味を正しく説明できていれば正解とします。
「採点のポイント」を満たすか確認し、足りない言葉を自分の解答に加えよう。

問題	模範解答	採点のポイント
問 1 財政難の背景	主な収入は年貢米だったが、城下での生活や政治には現金が必要だった。商業や貨幣経済が広がる中、米を売って得る収入と必要な支出が釣り合わなくなった。	年貢米中心の収入と、現金を必要とする支出を結び付ける。
問 2 支出と収入	倹約はぜいたくを控えるなどして支出を減らす政策だった。新田開発は耕地や生産を増やし、年貢の収入を増やす政策だった。支出と収入の両面から立て直しを図った。	倹約による支出削減と、新田開発による年貢収入の増加を区別する。
問 3 上げ米の制	幕府は大名から米を得て財政を補った。大名には米を出す負担が生じたが、江戸での滞在期間が短くなり、その生活費などを減らすことができた。	幕府の米の収入、大名の米の負担と江戸滞在費の軽減を示す。
問 4 目安箱と提案	人々の意見や訴えを将軍が知り、政治の改善に役立てる仕組みを設けた。例えば、貧しい病人の救済を求める提案から、小石川養生所の設置につながった。	意見・訴えの収集と、養生所など具体的な政策への反映を示す。
問 5 裁判の基準	それまでの法令や裁判の例などをまとめ、役人が判断するときの基準を整えるためである。担当者によって扱いが大きく変わることを抑え、司法の仕組みを安定させようとした。	裁判や刑罰の基準を整え、役人の判断をそろえようとしたことを示す。
問 6 田沼の財政策	株仲間を公認し、運上・冥加などを集めて商工業の利益を収入に取り込もうとした。また、長崎貿易や俵物などの輸出を増やし、貿易からも利益を得ようとした。	商工業者からの税と、長崎貿易・輸出の拡大という二つの方法を示す。
問 7 株仲間の扱い	田沼は株仲間を積極的に公認し、商業を統制しながら税などの収入を得ようとした。水野は株仲間の独占が物価を上げると考え、解散させて物価を下げようとした。	田沼の公認と財政収入、水野の解散と物価引下げを対応させる。

解答 STEP 3 記述問題 続き

問題	模範解答	採点のポイント
問 8 飢饉と不満	冷害などの凶作で米が不足して価格が上がり、米を買う人々の暮らしが苦しくなった。救済が十分に届かないことや、米の買い占めなどへの不満が、抗議や打ちこわしにつながった。	凶作・米不足・米価高騰による生活苦と、救済や米商人への不満を示す。
問 9 寛政の農村策	江戸などへ出た百姓に旅費や農具代を与えるなどして帰農を奨励し、村での生産や年貢負担を支えようとした。また、囲米で米を蓄えさせ、飢饉に備えた。	帰農の奨励による農村の再建と、囲米による飢饉への備えを示す。
問 10 棄捐令の目的	生活が苦しくなった旗本や御家人を救うために出された。札差から借りた古い借金などの返済を免除し、幕府を支える家臣の生活を立て直そうとした。	旗本・御家人を対象とし、札差からの古い借金などの免除であったことを示す。
問 11 学問の統制	朱子学は上下の秩序や忠義、道徳を重んじるため、武士の規範や幕府の支配を支えると考えたからである。幕府の教育の方針をそろえようとした。	朱子学の秩序・忠義・道徳を重んじる考えを、武士の教育や支配と結び付ける。
問 12 民衆の抗議	百姓一揆では、領主などに年貢の軽減や役人の不正の是正を求めた。都市の打ちこわしでは、米価の高騰や買い占めなどに抗議し、米屋や豪商らを襲った。	領主への年貢軽減などの要求と、米商人らへの米価・買い占めをめぐる抗議を区別する。
問 13 農村の格差	商業などで富を得た人が土地を集める一方、借金などで土地を手放す百姓もいた。土地を貸す地主と、借りて耕作し小作料を納める小作人の関係が広がり、格差が大きくなった。	土地の集積と手放す動き、地主と小作人の関係を、農村内の格差と結び付ける。
問 14 大塩の乱	天保の飢饉で人々が苦しむ中、役人や豪商の対応への不満から起きた。元町奉行所の役人が救済を訴えて兵を挙げ、幕府の支配や対応への信頼を揺るがした。	飢饉と救済への不満、元役人による蜂起が幕府の支配を揺るがしたことを示す。

解答 STEP 3 記述問題 続き

問題	模範解答	採点のポイント
問 15 天保の物価策	仲間による独占をなくし、競争を広げて物価を下げようとした。しかし、株仲間は商品の取引や流通をまとめる働きも持ち、解散による混乱などで十分な成果を得られなかった。	独占の排除と物価引下げのねらい、流通を支えていた働きや解散後の混乱を示す。
問 16 諸藩の財政	米沢藩は織物などを育て、薩摩藩は砂糖の専売を利用した。長州藩は特産物や下関の交易などを利用した。地域の産業や交通の条件を生かして、収入を増やそうとした。	二例以上の地域の産業・交易を挙げ、それぞれを藩の収入増加と結び付ける。
問 17 改革の評価	よくない。収入を改善した政策もあれば、反対で実施できなかった政策もあった。政策ごとの目的や成果、負担を受けた人々を確かめ、時期や立場を分けて評価する必要がある。	具体的な成果と実現できなかった政策を挙げ、改革全体を一つの評価に決め付けない。
問 18 異学の禁の範囲	いえない。異学の禁は幕府の学問所などの教育を統制する政策だった。各地では国学や蘭学などの研究も続いており、日本中の学問が朱子学だけになったわけではない。	幕府の教育への統制と、各地での研究の継続を区別し、禁止の範囲を考える。
問 19 流通と物価	いえない。独占を抑えても、流通を支える仕組みまで失われれば、商品が行き渡らず物価が下がらない場合がある。再興も踏まえ、独占と取引を支える働きの両方を見る必要がある。	独占の制限だけで判断せず、取引・流通の維持という働きと再興を結び付ける。
問 20 専売と人々	いえない。藩の収入が増えても、作る人々には生産や納入などの負担が増す場合があった。藩の財政の改善と、生産者の暮らしの改善は、分けて確かめる必要がある。	藩が得る利益と生産者の負担を区別し、立場によって影響が異なることを示す。